

Campus News 1

平成 13 年 4 月 No.1

創刊に寄せて

富山大学広報委員会委員長

富山大学副学長 小澤 浩

いわゆる「情報化」の時代にあって、大学が保有している多様な情報を、大学の内外に積極的に公表していくことは、いまや大学の果たすべき重要な使命の一つとなりつつあります。勿論、大切なのは情報の「中身」の方であり、その伝達は「手段」に過ぎないのですが、いかに内容のある情報でも、それがメディアに乗らなければ、無いにも等しいものとなってしまいます。その意味で、大げさに言えば、大学の適切な情報公開は、今や自らの存亡に関わるものと言ってもいいのではないのでしょうか。

そのような要請に応えるため、本学では、昨年 4 月、新たに広報委員会を設置し、広報活動や情報公開に関する基本方針を定め、それに基づいて当面する諸課題に取り組んできました。中でも、地域社会との関わりの深い富山大学のようなところでは、その活動について、絶えず地域住民の関心と理解を得ていく必要があります。このた

め、本委員会では、目下 4 月創刊を目指して地域向け広報誌発刊の準備を進めておりますが、他方、肝心の学内構成員に対して、大学の方針や現状についての的確な情報をいち早く提供し、その理解と協力を得ることは、更に重要な課題だと言わなければなりません。そうした役割を担って発刊されたのが、この「Campus News」です。

そのコンセプトを一言で言うなら、「本学の構成員(学生、教職員)が必要としている最低限の情報を、出来るだけ正確に、かつ簡潔に、そして早く提供する」ということです。ですから、御覧のように、余り無意味な装飾はないし、見た目にも美しいものではないかもしれませんが、その代わり、役に立つものであることだけは請け合っていると思います。勿論、皆様のご協力がなければ、その目的は十分に果たすことができません。私たちの広報誌として、みんなで育てていって頂ければと願っております。

目 次

○ 創刊に寄せて.....	1	○ 学生部だより.....	5
○ ニュース / 大学の動き.....	2	授業科免除制度について	
富山大学の未来像		奨学金制度について	
独立行政法人化問題への対応について		履修登録について	
新入生諸君へ		○ 学内マップ.....	6
平成 13 年度入学式 ほか			

ニュース 大学の動き

富山大学の未来像

富山大学長 時澤 貢

「21世紀の大学像」が問われている今日、国立大学では第30の変革期を迎えています。第1期は、明治に創設された有数の帝国大学の時代。第2期は、約50年前に遡る新制国立大学の設立時です。以後我が国の教育は、質・量の拡大で先進産業経済の発展を遂げてきましたが、最近では、地球環境問題を含めて発生する相反の国際協力を保つことが不可欠となってきました。

いま、大学はこの相反する力を受けざるを得なくなっており、人類共通の資産として国際社会に貢献しなければならない第30の変革期を迎えています。そのために各大学は、その使命・役割を自主的に検討し、目標を設定、提示することによって、個性に輝く大学づくりを目指して改革を進めているところです。

富山大学は国立地方大学の持つ資源と大学が置かれている環境を的確に判断し、これまで公表した自己点検評価を検証しながら、平成11年3月本学の基本理念として5つのコンセプトを設定しました。さらに、現在は平成13年度からスタートする5ヶ年間の中期目標計画を審議しています。すでに、施策・計画を具体化するために、長年懸案とされていた大学の管理システムの改革を実施し、大学設置基準の改正による学長・副学長制度、評議会・教授会等の役割と位置付けの明確化、その他事務組織の一元化を終えました。大学運営の意志決定にかかる審議は、学内では運営会議、部局長会議、評議会が主となり、学外からは大学運営諮問会議等で有識者の助言を求めています。大学は第三者による検証の義務化を客観的評価システムの導入に盛り込み、社会的責任を公表することになります。

本学は、5学部4大学院研究科を有する総合大学です。附属施設として附属図書館のほか9ヶ所のセンターを有し、多数の留学生も受け入れています。さらに平成13年度には、極東地域の環境・経済・社会開発を研究する「極東地域研究センター」や新産業・新技術創出の萌芽となるべき人材育成を目的とした「サテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリー」が設置されるなど、個性に輝く教育研究基盤を一層充実させています。教員の業績評価については、教育・研究・管理運営・社会貢献を総合的に行うことを目標に、各人の業績調査を行い公開しました。また、学生による授業改善の重要資料となるアンケートに工夫を凝らす目的で5年前より試行してきましたが、今後定常的な双方向からの調査ができる方式を確立し、継続的な授業改善に直接的に結びつける努力をしています。

ご承知のように国立大学の独立行政法人化の動きが急です。国立大学を国の直轄運営から切り離すという発想は、教育の質の向上と研究活動の効率化、地域への貢献という視点で重視されています。これからは地域になくてはならない大学として、地域と共に生き、発展する中で21世紀に輝く個性を創っていききたいと願っています。

今世紀は「知の創造時代」といわれ、知識が爆発的に膨張するためにIT革命によるデータの情報リテラシーが急務となります。大学はこのように蓄積された知識の知恵化をはかるために、グローバルなコミュニケーション能力を発揮して国際的にも評価される実践型能力を有する人材を育成しなければなりません。本学では、大学の自主性・自立性の裁量を広げる研究と教育を両立させるような学部と大学院を擁する方向をこれから求めて具体的な大学像としたいと考えています。

独立行政法人化問題への対応について

国立大学の設置形態に関する検討特別委員会委員長
富山大学副学長 小澤 浩

皆様御存知のように、国立大学の独立行政法人化（以下「独法化」と略す）問題は昨年5月、中曽根文部大臣（当時）が「大学の特性に配慮しつつ、国立大学を独法化する方向で具体的検討に入ることを表明してから新たな段階に入りました。文部科学省ではこれに基づいて独法化に関する調査検討会議を設け、検討を進めており、今年の夏前後には一応のまとめをつけ、年度内には決着をはかる予定だと言われております。一方、国立大学協会の方も、通則法をそのまま国立大学に適用することに強く反対するという従来の態度を堅持しつつ、文部科学省の調査検討会議に積極的に参加し、国大協の意向を強く反映させるとともに、国大協内に設置形態検討特別委員会を設けて新たな事態に対応することを決め、独自の検討を重ねております。

これに対して本学では、平成11年10月、臨時評議会で独法化問題につき集中審議し、通則法による独法化反対を決議、11月には学長の説明会を開催、12月には学長のもとに独法化問題検討会を設け、12年1月には学長見解を公表、他方では特別講演会を度々開くなどして、学内構成員の理解の深化を図ってきました。更に、前述のような情勢の変化を踏まえ、6月には、上記の検討会に替えて、評議会のもとに、独法化問題の調査・検討を任務とする「国立大学の設置形態に関する特別検討委員会」を設置し、本学としての対応に

つき、検討を進めております。

これまでこの委員会では、まだ文部科学省の検討会議や国大協の特別委員会の議論の方向がつかめないため、とりあえず東京大学の国立大学制度研究会の報告「国立大学の法人化について」を材料に、予想される問題点についての検討を重ねてきましたが、その作業に一応の区切りがついたことと、先般国大協特別委員会の長尾真委員長から「国立大学法人の枠組みについての試案」が送られてきたこと、名古屋大学や東京大学、大阪大学を始め他の大学でも独自の案作りが進行していることなどに鑑み、次回からはそれらを参考にしつつ、個々の具体的な論点に即して、富山大学独自の見解(案)をまとめていく方向で議論を進めていくことにしております。

なお、委員会の議事要旨については、評議会を経て各学部へ伝達されるようになっておりますが、それだけでは必ずしも周知徹底しない恐れがありますので、これからは、本誌でも、逐次その要点をお伝えしていくようにしたいと思っております。また、その他の必要な情報については膨大な量になりますので、最低ネットでのアクセスの方法などについて、できるだけお知らせしていくつもりです。また、これまでは、学内構成員の意見を吸収するという点で、必ずしも十分ではなかったのですが、今後は積極的にそうした機会を作っていきたいと考えておりますが、とりあえずご意見をお持ちの方は、文章またはメールで委員長宛てお寄せ頂ければ幸いです。

メールのアドレスは kozawa@mt.toyama-u.ac.jp です。問題の重要性に鑑み、委員会が独走したり孤立したりすることはぜひとも避けたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

新入生諸君へ

富山大学 副学長 能登谷 久公

諸君はどのような夢と希望を抱いて大学の門をくぐられたのであろうか。諸君も最近のメディア等で「国立大学の法人化」という言葉を見聞きされていると思いますが、現在、日本の国立大学は、社会からその存立を大きく問われております。

これまで「大学自治」の命題のもとに、大学は社会の動向と関わりなく、自由に教育・研究を行ってきました。

大学では高校までとは異なり、学生は各自の意志と責任において、個性的で多様な選択が可能でした。教官の講義は、自分の研究を通して行われ、それに興味・関心を持った学生が、その講義を聴講し、興味を持たない学生は受講しないという事、つまり、学生諸君には勉強をする自由もしない自由もあるが、その一切の責任は学生自らが負うことになっておりました。

しかし、同年代の半数が大学に進学する時代背景と、費用の多くを国民の税金で運営される国立大学は、その教育や研究の内容の公開が要求される事になりました。即ち、大学は責任を以て諸君の教育に取組まねばならない事になりました。

本学は、基礎・教養教育と専門教育を車の両輪と位置付けし、一年次より教養教育と平行して専門教育を実施していますが、これは本学に入学された諸君に、目的意識をもって学習して頂くためのものです。高度に発達した自然科学や多岐にわたる人文・社会科学の教科を開講しており、諸君の豊かな人間形成や自己実現を支援するものです。本学では全教官が自分の専門以外に教養教育の授業を担当し、諸君は自分の学部以外の教官の講義を聴講する機会があります。多様な価値観や考え方の異なる教官に接する事で諸君の世界観が広がる事になるものと考えております。

将来への限らない夢と、目的意識を持って勉学や課外活動に取り組むことが、諸君の豊かな自己実現を可能とすると信じております。

平成 13年度入学式

日 時 平成 13年 4月 10日(火) 10:30~

場 所 富山市芸術文化ホール
~ オーバードホール ~

問い合わせ先 総務部総務課総務係 TEL.076-445-6111

学生健康診断

○ 1年生

日 時 平成 13年 4月 12日(木) 13:00~ 16:00

対象及び実施場所 人文学部...学生会館
工学部...工学部

日 時 平成 13年 4月 18日(水) 13:00~ 16:00

対象及び実施場所 教育・理学...学生会館
経済学部...経済学部

○ 2・3・4年生(場所:学生会館)

日 時 平成 13年 4月 13日(金) 13:30~ 15:00

対象 工学部

日 時 平成 13年 4月 20日(金) 13:30~ 15:00

対象 経済学部

日 時 平成 13年 4月 25日(水) 13:30~ 15:00

対象 人文学部・理学部

日 時 平成 13年 4月 27日(金) 13:30~ 15:00

対象 教育学部

○ 全大学院生(場所:学生会館)

日 時 平成 13年 5月 2日(水) 13:30~ 15:00

自分の学部の日に受けられない場合は早めに保健管理センターに知らせてください。

問い合わせ先 保健管理センター TEL.076-445-6911

大 学 祭

実施期間 (平成 13 年 5 月 30 日(水)前夜祭)
平成 13 年 5 月 31 日(木) ~ 6 月 3 日(日)
問い合わせ先 富山大学大学祭実行委員会 TEL 076-445-6128

「公務員の役割と採用試験の説明会」 の開催について

月 日 4 月 18 日(水) 及び 4 月 25 日(水)
場 所 黒田講堂
対 象 主として 4 年生
説明事項・内容等

4 月 18 日(水) 14 00~
国家公務員関係
一般職(財務局)
国税専門官(国税局)
労働基準監督官(労働局)
裁判所調査官補(地方裁判所)
裁判所事務官(家庭裁判所)
法務教官(富山少年鑑別所)
自衛官(防衛庁・自衛隊)
4 月 25 日(水) 13 30~
警察官(警視庁ほか)

問い合わせ先 学生部厚生課 TEL 076-445-6086
この後も全学及び各学部において開催しますので、
順次お知らせしていきます。

「M とバイオサイバネティクス研究会」 の開催について

電子情報通信学会主催の標記研究会を下記のとおり開催します。本研究会は医用電子工学、医用工学、生体計測、福祉機器等に関する研究テーマを中心に活動している研究会です。

多数のご参加をお待ちしています。
日 時 平成 13 年 5 月 25 日(金)
9 30 ~ 17 00

場 所 工学部大会議室

問い合わせ先 工学部電気電子システム工学科
佐々木 和男 TEL 076-445-6719
<http://www.ieice.or.jp/mbe/jpn/>

「最新電子顕微鏡法の実用材料開発への応用研究会」 の開催について

最近の電子顕微鏡の進歩にはめざましいものがあり、原子オーダーでの構造解析が現実のものとなっている。さらにこれらの技術がすでに半導体デバイスを中心とした材料開発に利用されており、今後広く金属材料研究に応用されることになるであろう。

今回はこのようなナノ領域の分析手法として注目

されている高角度環状暗視野—走査透過電子顕微鏡(HAADF-STEM)法とそのための試料作製技術として不可欠な集束イオンビーム試料作製(FIB)法についての最新の研究動向について話題提供いただき、今後の展開を議論するものである。

日 時 平成 13 年 6 月 8 日(金) 13 30 ~ 16 30
場 所 黒田講堂
問い合わせ先 物質生命システム工学科
森 克徳 TEL/FAX 076-445-6843
池野 進 TEL/FAX 076-445-6839
松田 健二 TEL/FAX 076-445-6841

「IT 講習会」の開催について

21 世紀を迎え、より豊かで活力ある日本を創り出そうと、全ての国民が「IT(情報通信技術)革命」の恩恵を享受でき、国際的に競争力のある「IT 立国」を目指して、政府から様々な施策が打ち出されています。その一つとして、パソコンやインターネットを使ったことのない初心者の方々を対象に、全国の都道府県・市町村で「IT 講習会」が始められました。平成 13 年度末までに全国で約 550 万人程度の受講生を見込んでいます。

富山県でも約 5 万人規模で「IT 講習会」計画が進められています。学校や公共施設の活用を中心に実施されますが、富山大学にも富山県から協力要請があり、大学では総合情報処理センターを中心に施設や人材の提供で最大限の協力をしたいと準備を進めているところです。具体的には約 1 000 人余りの受講生を対象に 6 月から、土・日や夜間の講習会を開始いたします。

詳しくは、富山県から広報されますが、富山大学での「IT 講習会」に多くの県民の方々が参加されることを期待しています。

大学での開催計画の詳細は下記のホームページをご覧ください。

URL <http://www.cns.toyama-u.ac.jp>
富山大学情報処理センター

梶 雅和君 日本機械学会畠山賞受賞



本学工学部機械知能システム工学科 4 年 梶 雅和君は、人格学業優秀につき本年度の畠山賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

・畠山賞について

畠山賞は故畠山一清によって設立された畠山文学財団からの寄付金によって運営され、日本機械学会では、毎年全国の国公立大学及び工業高等専門学校、機械工学関連学科からそれぞれ人格学業とも優れた卒業生一名の推薦を受け、日本機械学会畠山賞の賞状及び副賞を贈ってその努力を表彰しています。

学生部だより

授業料免除制度について

授業料は、経済的理由などにより納付が困難な場合には、授業料の全額又は半額を免除あるいは徴収を猶予する制度があります。

受け付け期間等については、各納期前に厚生課及び各学部に掲示しますので、希望する学生は掲示に注意してください。

学生生活案内 筈に詳細が書いてありますが、不明な点があれば学生部厚生課へ問い合わせてください。

奨学金制度について

奨学金制度とは、学業・人物ともに優秀であり健康でかつ経済的理由により学費の支弁が困難と認められる学生に学費を貸与又は給与するものです。

日本育英会の奨学金が代表的なものですが、その他にも様々な団体による奨学金がありあます。

募集については、緊急のものを除いては4月に、厚生課及び各学部に掲示しますので希望する学生は掲示に注意してください。

学生生活案内 筈に詳細が書いてありますが、不明な点があれば学生部厚生課へ問い合わせてください。

履修登録について

履修登録とは、時間割を基にして学期ごとに受講する科目を登録する手続きのことです。この手続きが完了していないと、受講しても単位認定されないため注意が必要です。右の「履修登録の流れとポイント」を参照してください。

履修登録の流れとポイント

スタート！



1. 必要な資料を確認する。
「**教養教育ガイド**」「**教養教育授業案内**」
「**専門教育履修の手引**」「**授業時間表**」



2. 履修計画を立てる
「**教養教育ガイド**」や「**専門教育履修の手引**」には必ず目を通してください。
それでもわからない場合は学部教務系の窓口へ！



3. 履修届を提出する
履修届は、**用紙**といって、手書数字をコンピュータで読み取ります。機械にわかりやすい文字で記入してください。



4. 履修登録結果を確認する。



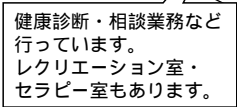
エラーがなければゴール！

5. エラー・訂正がある場合は
履修登録訂正の結果を確認する



エラーがなければゴール！

授業科目コードの記入間違いで、授業科目が全く違って登録されている場合があります。
外国語のクラス間違いにも注意が必要です。



「Campus News」についてのお問い合わせは、Campus News 編集委員会までお寄せください。電話、E-mail、手紙などどんな形でも結構です。宛て先は下記のとおりです。

(Campus Newsはweb上でもご覧いただけます)